

無線ネットワークの性能評価 論文小特集の発行にあたって

無線ネットワークの性能評価論文編集委員会

委員長 仙石 正和



最近の情報通信の進展は目覚しく、特に NII, GII, 情報ハイウェイ, マルチメディア等の言葉がマスコミをにぎわしている。このように情報通信が一般市民にもこれほど注目される時代は過去にそれほど多くはなかったのではなかろうか。ネットワークが高速広帯域化, マルチメディア化していくなかで, 無線通信を利用した, モビリティ (移動性) も強く要求されてきている。移動体通信では, PHS, 自動車電話や航空機通信のパーソナルデジタルセルラ (PDC) が実用化され, 衛星通信も含めこれらが結合され, 更にマルチメディア化した, いわゆるマルチメディア無線通信をも目標とした, FPMLTS (Future Public Land Mobile Telecommunication System) への発展が期待されている。

このような状況の中で, 無線ネットワークは, その言葉から直接イメージされる従来の“無線 LAN”の概念だけではとらえられなくなっている。本特集は, 無線ネットワークを広い意味としてとらえ, 無線, モビリティ (移動性), ネットワークをキーワードとして論文の募集を行った。招待論文として, (1) 携帯情報端末のネットワークの接続インタフェース, (2) 19 GHz 帯高速無線 LAN システムの一性能評価法, (3) 衛星通信ネットワークにおける多元接続方式, の 3 編で最新の研究と技術動向を論じていただいた。一般論文は, アクセス系の評価, プロトコル, アロハ, フロー制御, マイクロセル, トラヒック, 衛星, モビリティ, 変調関係等の, 論文 13 編が投稿され, 8 編が採録となった。残念ながら不採録になった論文も非常に優れたものが多く, 採録できなかったのは論文の修正をあまりにも短期間でお願いしたことが原因と考えられる。再投稿

を強くお願いする次第である。

“無線”と“ネットワーク”はもともと通信技術の分野では, 離れた存在であった。すなわち, 無線およびネットワークの研究の本質部分は, それぞれ電波または光を用いた無線通信技術, およびトラヒックやプロトコル技術であり, 同じ通信分野ではあるが, 基本的なシステムの考え方に大きな開きがあったようである。しかし, 今や無線とネットワークをむしろ融合したシステム開発が強く期待され, そのための新たな考え方の出現も望まれている。

本特集号の編集について御指導いただいた, 通信グループ和文誌編集長の中川正雄先生 (慶大), 森永規彦先生 (阪大), 本特集号のお世話をしようとお勧めいただいた, 交換システム研究会の幹事高橋達郎氏 (NTT), と田坂修二先生 (名工大) に感謝の意を表します。

また, 上述のように, 最新でかつ必ずしも成熟していない本題の難しい分野のお世話は私のようなものには到底できるものではなかったが, 本誌は編集幹事の岡田和則 (通信総研), 小松尚久 (早大), 田村 裕 (新潟工科大) および編集委員の天田栄一 (日立), 岡田博美 (阪大), 小野里好邦 (群馬大), 小林 浩 (東芝), 篠田庄司 (中大), 高橋 薫 (高度通信システム研究所), 田坂修二 (名工大), 田中利憲 (NTT), 中川正雄 (慶大), 中尾康二 (KDD), 古谷之綱 (NEC), 藪崎正実 (NTT DoCoMo) の各氏のすべてにわたる御尽力によるところが大きい。更に論文の査読に御協力頂いた方々, 御寄稿いただいた著者の方々, お世話いただいた事務局の方々に深く感謝の意を表する次第です。